

昔々、三河の国に

豊田くんという男の子と

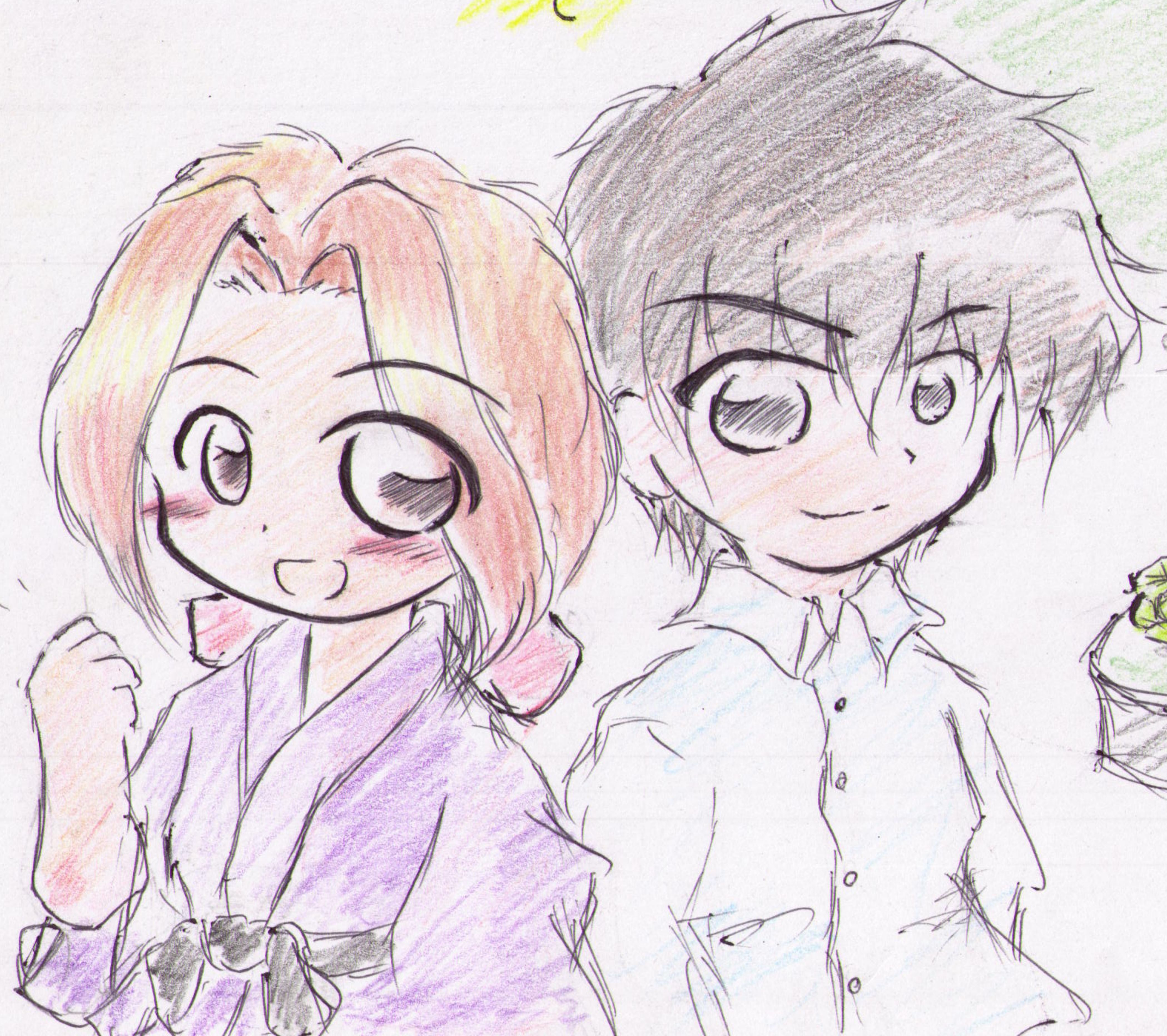
田原さんという女の子がおりました。

田原さん

豊田くん

豊田くんは車をつくり
田原さんはキャベツをつくら
生活していました。

暮らし方は違えけれど
二人はとても
仲良かったです。

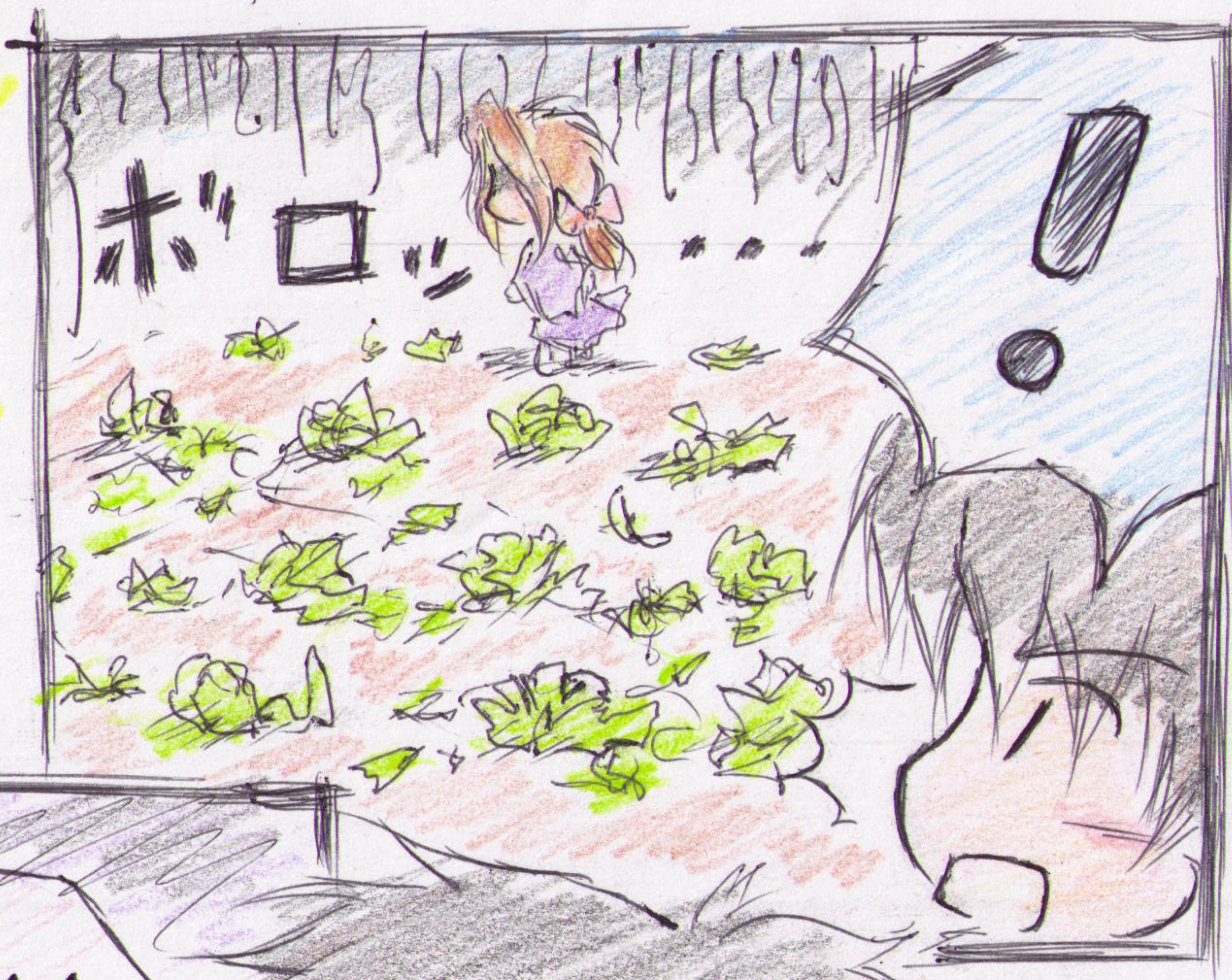


ある日、豊田くんが

田原さんの畑に遊びに行くと

なんと畑がボロボロになっていました。

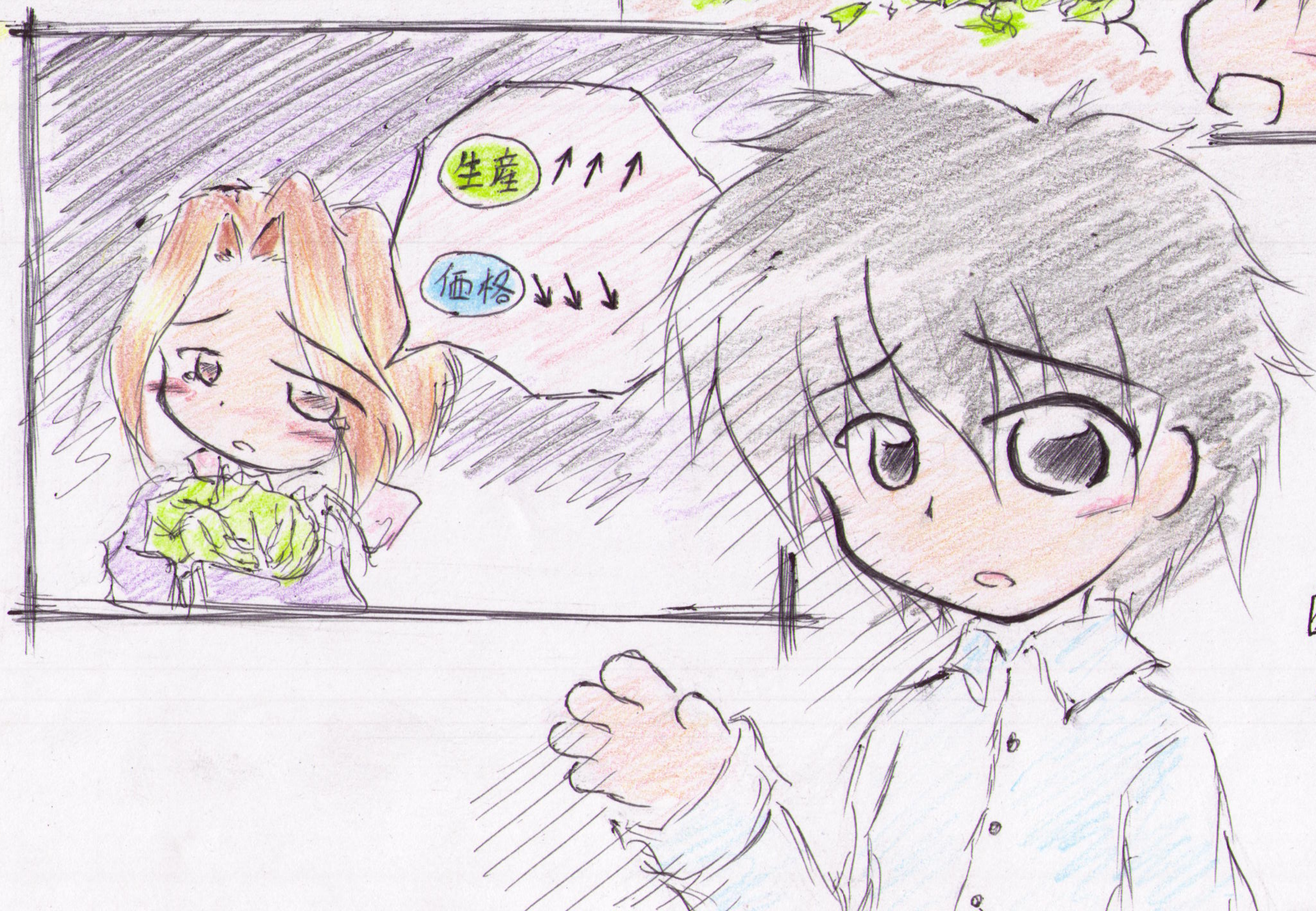
サルやイノシシの仕業でしょうか？



しかしそれは田原さんが
自らつぶしたものでした。

キャベツがとれすぎたため
産地廃棄をしないと
価格が暴落し

赤字になってしまうのです。



豊田くんは大きなショックを受けました

そして思ったのです

「ボクに何かできることはないだろうか……？」

そこで豊田くんは

自分が仕事で培った知恵を

キャバツ作りに応用しようと試みました。

平準化

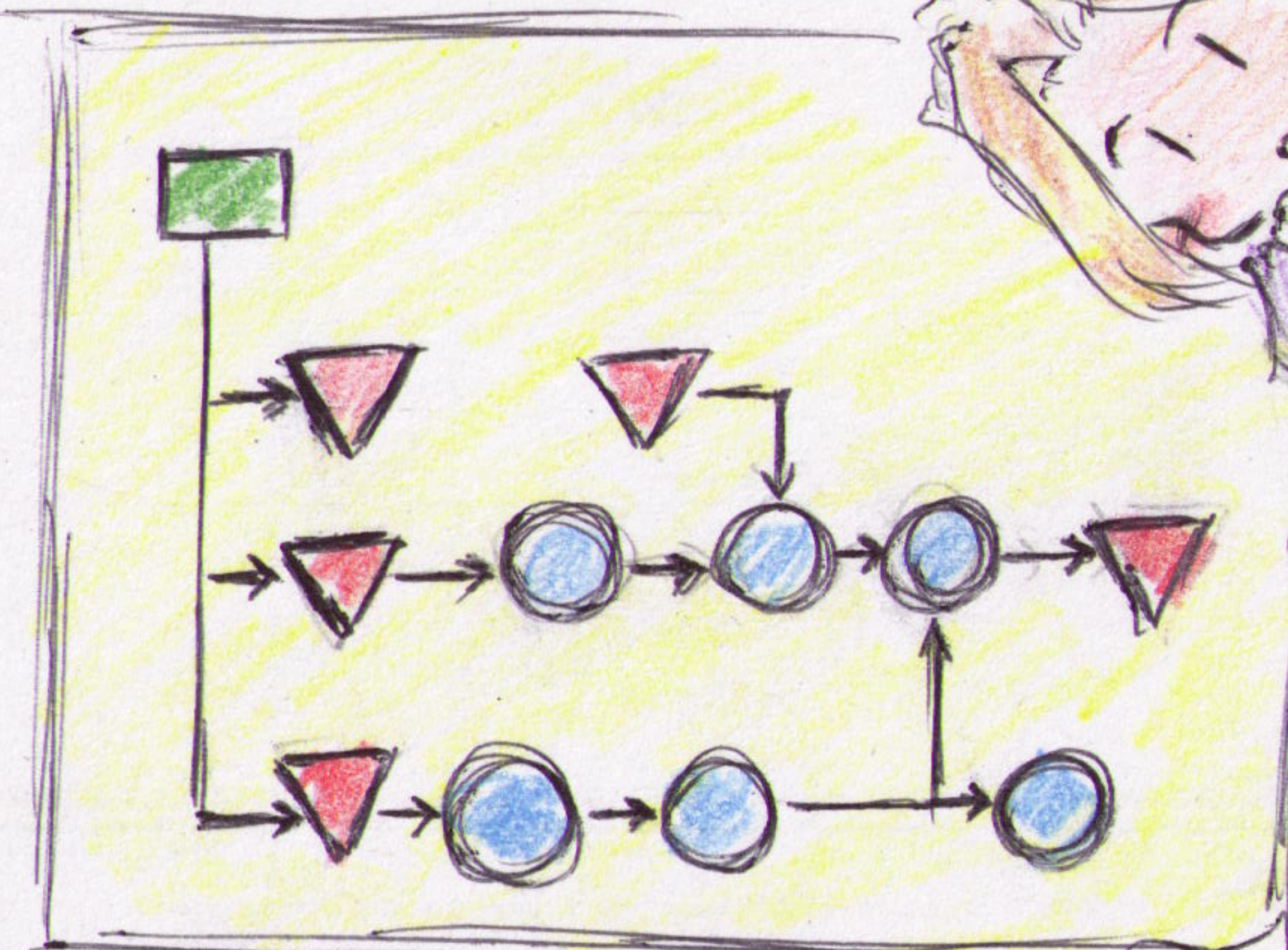


必要なものを

必要なときに

必要なだけ適切に

自動化



カービィ

見くろ

カイゼン

ものづくりが育んだ

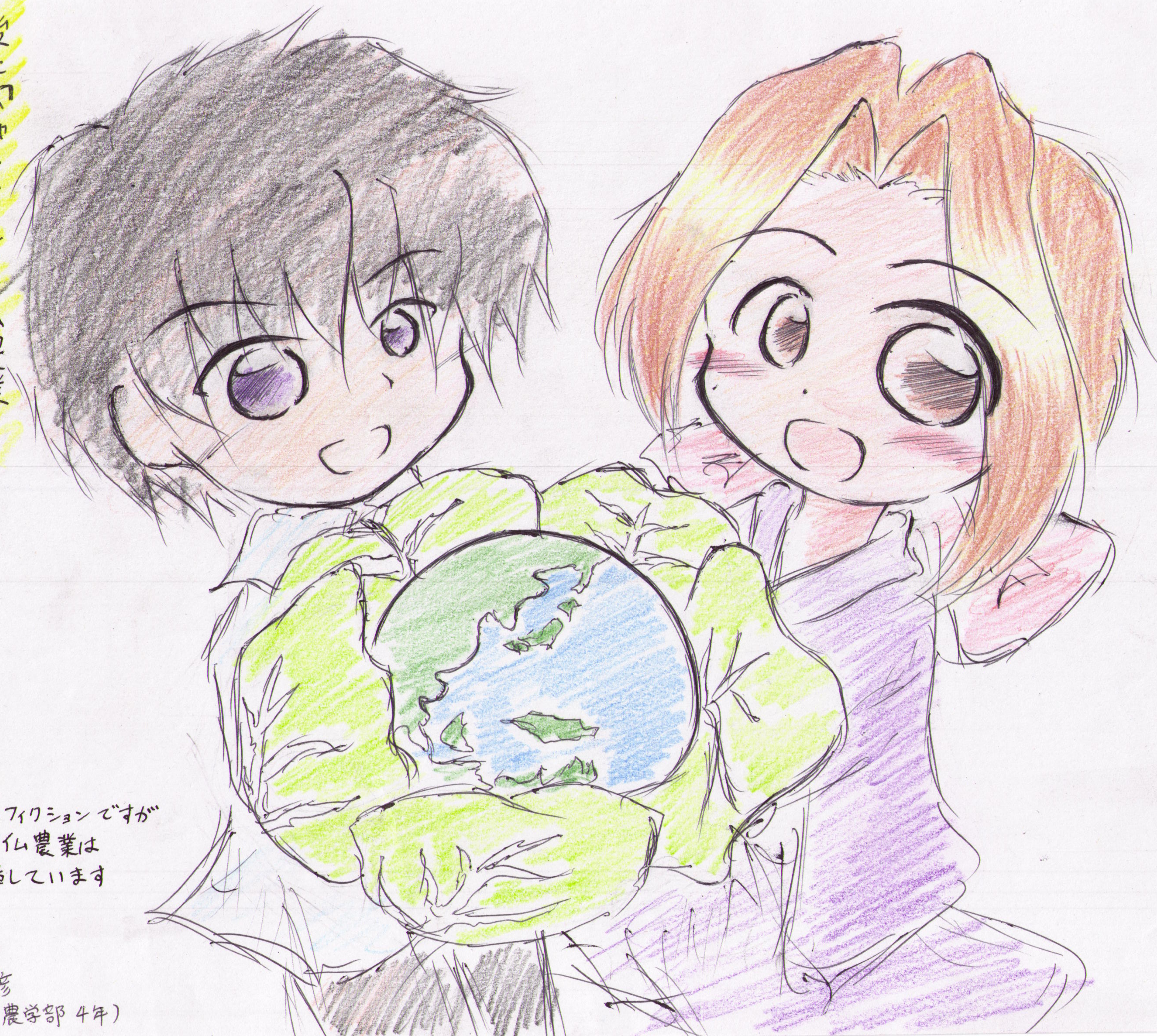
技術と心意気を武器に

農業が直面する困難に

果敢に立ち向かいました。

このトヨタ方式をとり入れた
新しい曲辰業システムは

後に「ジャストインタイム曲辰業」と
名づけられました。



※この物語はフィクションですが
ジャストインタイム農業は
実現を目指しています

作: 小松 和彦
(東京大学 農学部 4年)